

第3次 枚方市食育推進計画

～中間評価～

概要版

第3次 枚方市食育推進計画とは ～計画期間：2018年度から2023年度まで～

子どもから大人まで市民一人ひとりが自らの「食」について考え、行動することを目的に、食育を総合的かつ計画的に推進する指針として策定しました。第3次計画からは、4つの基本方針を定めて市民の食育推進に取り組んでいます。

- 基本方針1 若い世代を中心とした食育の推進
- 基本方針2 健康寿命の延伸につながる食育の推進
- 基本方針3 ネットワークによる食育推進と食文化の継承
- 基本方針4 地産地消の促進と環境に配慮した食育の推進

中間評価の趣旨

2020年度は本計画期間の中間年度にあたり、さらには新型コロナウイルス感染症拡大により食生活の影響も懸念されるため、計画の進捗状況を確認するとともに、新しい生活様式での食に関する意識の変化や課題の把握をしました。

中間評価のまとめ ～計画策定時値との比較～

新型コロナウイルス感染症拡大により、飲食を伴う食育活動や多くの人が集まるイベント、農業体験等が中止となり、様々な食育活動に大きな影響を及ぼした。

- 改善の一例
 - ◆ 食品ロス削減のために何らかの行動をしている人が増えていた。
 - ◆ ゆっくりよく噛んで食べる人が増えていた。
- 悪化の一例
 - ◆ 1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人が、年代に関わらず減少していた（特に20歳代・30歳代）。

最終年度に向けて特に進める基本方針

第3次計画から新たに加わった2つの基本方針

- ☑基本方針1
若い世代を中心とした食育の推進
- ☑基本方針2
健康寿命の延伸につながる食育の推進

優先的に取り組む課題

- ☑1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代（20歳代・30歳代）の増加
- ☑生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の増加

調査の方法

評価の基礎資料となるアンケートは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、郵送で行っていた方法から一部策定時と異なる方法（インターネットアンケート）も取り入れて実施しました。

「食」に関する市民意識調査

対象：20歳以上の市民
 実施期間：令和2年10月
 実施方法：郵送
 有効回答数：1,490人

「食」に関するアンケート

対象：市内高校6校の生徒
 大学・専門学校4校の生徒
 実施期間：令和2年10月
 実施方法：インターネット
 有効回答数：987人

小中学校での食育の 取り組みに関するアンケート

対象：市内全64小中学校
 実施期間：令和2年9月
 実施方法：インターネットおよび郵送
 有効回答数：64校

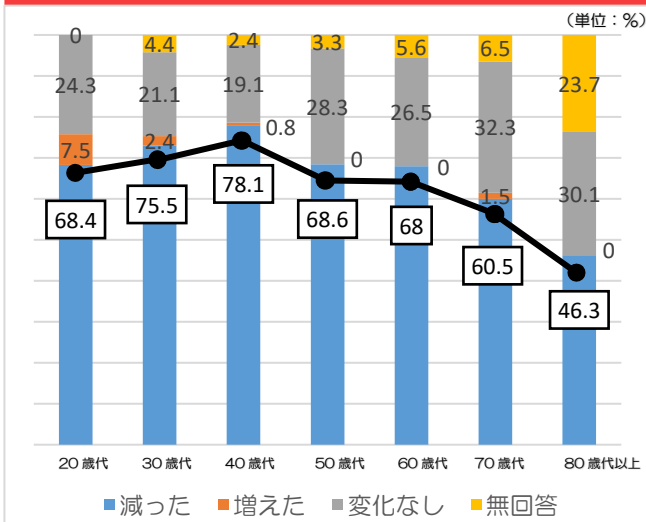
幼稚園・保育所（園）・認定こども園における 食育の取り組み状況アンケート

対象：市内全98施設
 実施期間：令和2年9月
 実施方法：インターネットおよび郵送
 有効回答数：98施設

新型コロナウイルスによる 「食」への影響

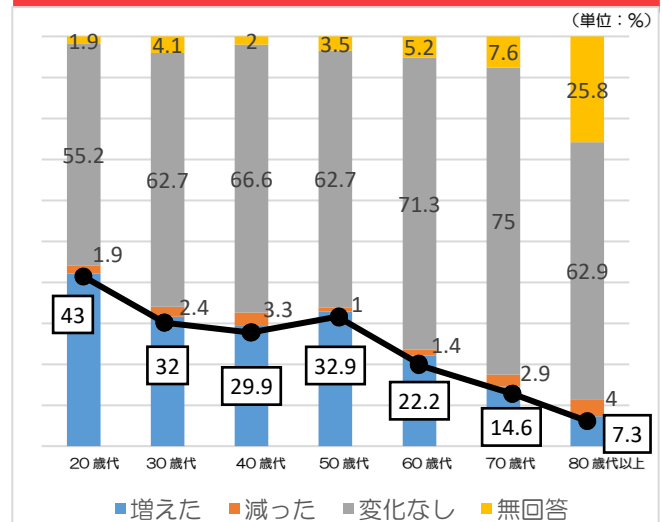
今回のアンケートでは、新しい生活様式下における食に関する意識の変化や食生活の変化について把握するため、新たに設問（下記グラフは抜粋）を追加して実施しました。

外食頻度が「減った」と回答した 各年代の割合



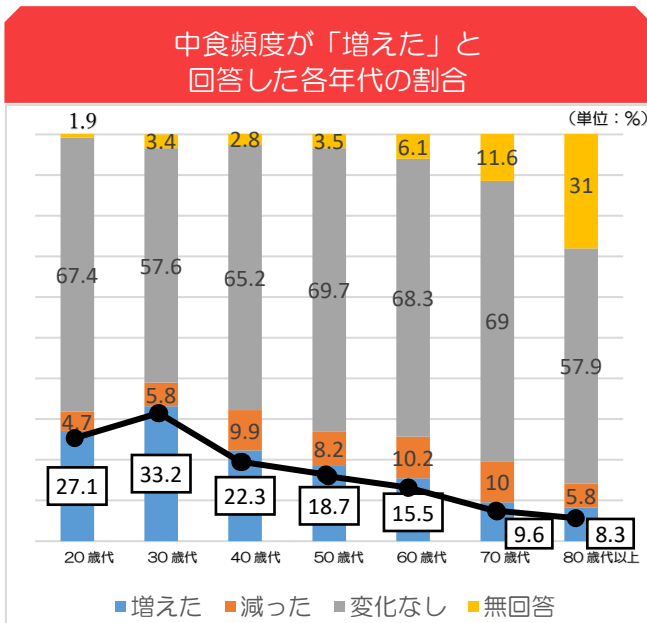
幅広い年代層で外食を控えていた。

自炊頻度が「増えた」と回答した 各年代の割合

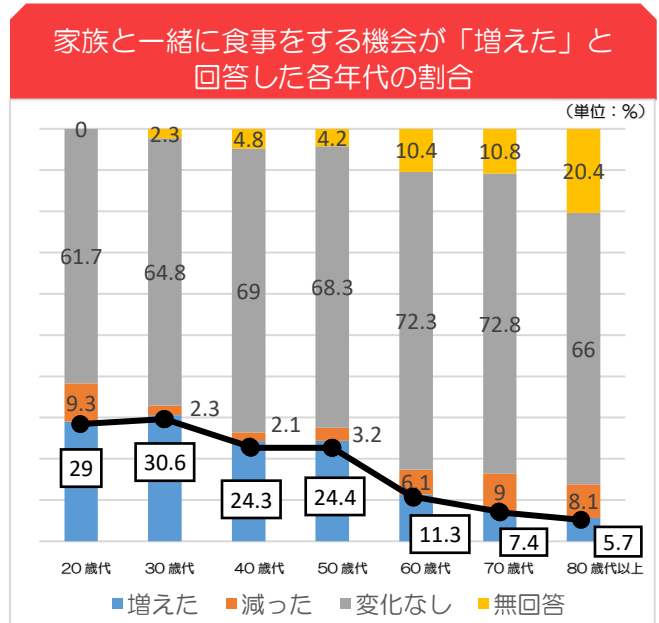


「20歳代」が他の年代より自炊の頻度が増えた割合が高かった。

※新型コロナウイルスによる「食」への影響は、若い世代において、高齢者より影響を受けている傾向が見られた。



「20歳代」から「50歳代」の子育て世代や働く世代において、中食の頻度が増えた割合が他の年代より高かった。



「20歳代」と「30歳代」の若い世代では、家族と一緒に食事をする機会が増えた割合が他の年代より高かった。

今後の食育の進め方

これまで推進してきた食育を継続しつつ、新しい生活様式に対応したものへと変化させていくことが大切。

これまで推進してきた食育の継続

- ☞ 家庭や仲間と一緒に楽しい食育体験の実施
- ☞ 集合型のイベントや講座の開催
- ☞ 媒体等を活用した啓発



新しい生活様式に対応したものへと変化

- ☞ インターネットや SNS 等を活用した情報発信
- ☞ 簡単な調理法の動画配信
- ☞ 自然とバランスの良い食事を選ぶことができる食環境づくりの検討



ネットワークを活かしながら一体となって取り組むことで、実践の環を広げていきます。

今後、優先的に取り組むことのうち、「適正体重の維持」については、第2次枚方市健康増進計画の中間評価における課題と同じであるため、整合性を図りながら推進していきます。

【第3次枚方市食育推進計画の策定時値・中間評価時値・目標値の一覧】

	指標	計画策定時値 (H29年度調査)	中間評価時値 (R2年度調査)	第3次計画目標値 (R5年度)
包括指標	①食育に関心のある人の増加	77.0%	74.9%	90%
	②食育活動を実践している人の増加	68.6%	70.8%	80%
基本方針1 若い世代を中心とした 食育の推進	③-1 欠食のある幼児の減少	0.4%	0.5%	0%
	③-2 朝食を欠食している小中学生・高校生の減少	小学6年生 5.9% 中学3年生 7.9% 高校生 6.6%	小学6年生 5.3% 中学3年生 7.8% 高校生 4.1%	0%
	③-3 朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	男 15.5% 女 5.8%	男 7.3% 女 6.4%	男 10% 女 5%
	④1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加（20歳代・30歳代）	49.3%	42.1%	60%
	⑤調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている保育所（園）・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業実施施設の増加	56.4%	52.6%	70%
	⑥保護者に対して食育の取り組みを行っている保育所（園）・幼稚園・認定こども園・小規模保育事業実施施設の増加	82.7%	81.6%	100%
	⑦小学校給食の米飯率の向上	週3回	週3回	週4回
基本方針2 健康寿命の延伸に つながる食育の推進	⑧1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加（生活習慣病予防）	59.8%	58.7%	70%
	⑨生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等につづけた食生活を実践する人の増加	63.1%	66.4%	75%
	⑩ゆっくりよく噛んで食べる人の増加	46.8%	51.1%	55%
	⑪食に関する基礎知識を有する人の増加	4,429人/年	12,241人/年	12,000人/年
	⑫食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加	22.3%	19.1%	65%
基本方針3 ネットワークによる 食育推進と食文化の継承	⑬1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人の増加	54.6%	51.8%	65%
	⑭地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増加	60.9%	43.7%	80%
	⑮食育推進に関わるボランティアの養成人数の増加	—	158人	450人
	⑯1日のうち2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加（日本型食生活の継承）【⑧再掲】	59.8%	58.7%	70%
基本方針4 地産地消の促進と環境に 配慮した食育の推進	⑰小学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加	33.1% (米100%) (野菜6.3%)	28.2% (米79.0%) (野菜8.2%)	38%
	⑱地元農産物直販会の開催数の増加	829回/年	722回/年	850回/年
	⑲食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加	77.3%	98.7%	100%
	⑳農業体験に参加する人の増加	6,183人/年	3,687人/年	7,300人/年

発行：枚方市 健康福祉部 地域健康福祉室 健康増進・介護予防担当

【所在地】枚方市禁野本町2-13-13（保健センター内）

【電話】072-841-1458

【FAX】072-840-4496

本計画の詳細は、
枚方市ホームページを
ご覧ください



コロナ終息を願う
ひこびエくん